

未踏が繋いだ、学生エンジニアたちの成長物語 —とある未踏コミュニティがシリコンバレーに渡るまで—

井上 恭輔 (株) ミクシィ

ソーシャル業界で働く Web エンジニア。mixi フォトのプロダクト・マネージャとバックエンドの開発を担当していたが、ある出会いをキッカケに、現在は曾川と一緒にシリコンバレーに渡り中。2006 年度上期未踏ユース採択者・スーパークリエイター。
kyoro@hakamastyle.net

曾川 景介 fluxflex, inc

正会員。シリコンバレーのスタートアップ企業「fluxflex」のリードエンジニア。元はソーシャルアプリの開発を行っていたが、大学院を卒業するタイミングで、井上からのオファーを受けてシリコンバレーに連行された。2010 年度未踏ユース採択者。
keisuke.sogawa@gmail.com

学生にとっての未踏ユース事情

未踏ユースの特徴は数多くあるが、中でも特徴的なのは、採択者のほとんどが現役の学生であるということだろう。井上（以下、私）は 2006 年度上期未踏ユースの採択者である。採択当時は津山高専の専攻科 1 年生で、年齢は 21 歳だった。地方の高専に通ういわゆる「田舎者ギーク」な私にとって、未踏ユースのコミュニティというのは、地元では味わえない興奮を感じる、何よりもキラキラと輝く素敵なお場所だった。

若者の成長には、人生観を変えるような人々との出会いが不可欠である。未踏ユースという場は、所属的、地理的、経済的、年齢的な垣根をすべて取っ払い、日本中から面白い才能を持った学生を、一堂に集めることができていく貴重な場である。周りを見回せば、ネジがぶっ飛んでいる「おもしろい奴」ばかり。しかも、誰もが希望と自信に満ちあふれた眼を輝かせている。お互いが仲良くならないわけがない。

大人たちから見れば、彼らの成果は些細なものかもしれない。しかし、彼らにとっての未踏での成果は、多くの場合、人生初の対外的な評価であり、自ら勝ち取った最初の成功体験なのだ。良い成功体験は、人をより大きく成長させる。この成功体験とお互いの絆を胸に、未踏卒業生たちはさまざまな世界へと旅立ち、活動の場を広げていくのである。

未踏バイラルコミュニケーション

2008 年 4 月、私は津山高専専攻科を卒業し、未踏を通じて縁のあった (株) ミクシィに就職した。

未踏に採択されたことで、自分の技術、活動する世界を大きく広げることができたと感じた私は、才能ある学

生たちに対して未踏ユースを積極的に進めていった。あるとき、ミクシィのインターンシップに参加した学生たちが、未踏ユースに応募したいと相談してきた。リーダーの片山育美は多摩美術大学の学生で、デザイナーのインターンとして参加していた。プログラムはまだほとんど書いたことがないが、どうしても未踏で作りたいプロダクトがあるのだと言う。提案資料やプレゼンのアドバイスなどを行ったところ、彼女たちは見事、2009 年度上期未踏ユースに採択された。片山たちにとっても、未踏ユースは良い成功体験となったようで、短い開発期間のうちに、みるみると技術力を伸ばした。

その後、私は片山たちと組んで、学生向けの技術系のワークショップを開くようになった。そして、活動を通して知り合った Web 系の学生たちに、次々と未踏ユースの魅力を広めていった。

コミュニティ開発と、渡米、起業

これらの活動を続けるうちに、いつしか採択年度や所属を越えた学生未踏コミュニティが生まれるようになり、開発合宿を企画したり、趣味でプロダクトを開発するようになった。

曾川は 2010 年度未踏ユース採択者である。当時は京都大学の大学院に通う学生で、片山が主催した技術系イベントを通じて知り合った。ソーシャル業界という繋がりを持った私と曾川はすぐに仲良くなり、一緒にさまざまなプロダクトを開発し、世の中に広く公開するという活動を趣味で始めた。2010 年 1 月に公開した、世界初の Android 向け NFC アプリケーション「Taglet」や、出会いを記憶する新しいソーシャルネットワーキングサービス「Meets」などは、その先進性や実装が高く評価され、海外メディアで取り上げられるほどの成

果を収めた。開発したアプリケーションは、日経 BP 社主催の Android Application Award 2011 Winter において、「アーリーアダプター賞」「学生賞」を同時受賞するなど、国内でも高い評価を得ている。

これらの成果から「いずれは自分たちでプロダクトを開発し、独立できないだろうか」と悶々と考えていた矢先、私は 2008 年度下期末踏採択者である久保溪と出会った。久保は未踏終了後、アメリカ・シリコンバレーで、クラウド・ホスティング事業を展開するスタートアップ「fluxflex」を起業し、ローンチに向け開発を進めていた(図-1)。一緒に Web の未来について語り合った後、意気投合した久保は「アメリカに来て一緒に事業をやらないか?」と渡米のオファーを私に申し出た。まさか海外で働けるチャンスが巡ってくるとは思わなかった私は、悩んだ末に覚悟を決め、勤め先のミクシィと交渉し、1 年間の期間をもらって渡米し、開発に参加することにした。

ただ、私一人が渡米するには、このチャンスはとてももったいないと感じた。そこで、これまでの活動で信頼を置いていた曾川を、アメリカに誘うことにした。曾川は私の誘いを二つ返事で快諾してくれた。2011 年 3 月、私と曾川は一緒に渡米し、久保とともに、シリコンバレーでの生活を開始した。そのタイミングで、本場シリコンバレーでの開発経験を多くの未踏系学生に提供しようと、片山たちのグループを学生インターンとして私たちの会社で受け入れるなどの試みも行った。

現在、fluxflex も無事に正式ローンチが行われ、着実にユーザ数を増やしている。米国の TechCrunch などにも掲載され、注目度も高い。今後はさらなるサービスの拡充などを行いながら、可能な限り後輩の未踏ユース卒業生などをインターンで迎え入れるなど、人材育成にもコミットしていきたいと考えている。

イノベーションをもう一度

このように、未踏には、とても不思議な因果がある。余談ではあるが、私たちがシリコンバレーで入居しているサンノゼのオフィスは、現在の未踏ユース PM である首藤一幸先生が(株)ウタゴエ時代に使っていたのと同じブースなのだそうだ。

もちろん、すべての採択者が私たちのような「未踏漬け」の人生を歩むわけではないと思うが、強い人の繋がりを生み出せるポテンシャルが未踏にあることを忘れ



図-1 全員が未踏出身者の fluxflex 開発メンバ

てはいけない。もし未踏が、単なるプロジェクトや研究の支援事業であれば、このような人の繋がりや相乗効果は期待できなかったであろう。未踏が人と人を繋ぎ、採択者の成長という点に重きを置いている事業であったからこそ、実現できた成果だと感じる。

実は、この未踏の「人材育成」同様の取り組みが、現在、IT の本場、シリコンバレーで起こりつつあることをご存知だろうか。

世界的に注目を集める「Y Combinator」という投資家集団がいる。Paul Graham を中心とするこのベンチャーキャピタリストたちは、主に若い世代のスタートアップベンチャーに投資を行い、Dropbox や Heroku, Airbnb, DotCloud といった有名企業を数多く生み出している。彼らの投資手法は、若い世代のチームに、米国のベンチャーキャピタルの常識からすると非常に少額(150 万円前後)の投資とプロジェクトマネジメントを行い、βリリースまでの面倒を見るというものである。また 2011 年度からは、Y Combinator の採択同窓生や、世代の繋がりをより強く意識した活動を展開していくと方針を発表した。彼らのやろうとしていることは、未踏ユースが古くから挑戦してきたコンセプトに限りなく近いと私は感じた。

現在、日本はまだ、IT ビジネスという分野においては米国に追いついていない。しかし、人材の育成という観点では、先進的なことが多く実践されているのではないかと考える。

未踏事業の今後に、大いに期待したいと思う。

(2011 年 9 月 20 日受付)